

「新春もちつきお楽しみ交流会」を開催！

宮城・福島の避難者と「もちつき」で交流！

1月28日（土）、東日本大震災で被災し秋田市内に避難している人たちを招待し、もちつきで親睦・交流を深めようと「新春もちつきお楽しみ交流会」が、秋田市仁別の太平山スキー場オーパスで開催された。

イベントは、被災者につきたての餅を食べて元気になってもらおうと、水土里ネット秋田・「あきた農業体験施設」運営会議が主催し、太平山観光開発（株）・太平山スキー場オーパス・松原活性化協議会（工藤嘉範会長）の協賛で行われ、宮城、福島両県から秋田市内に避難している14家族42人を含む約80名が参加した。

オープニングで、水土里ネット秋田の水戸憲光常務理事が「水土里ネット秋田では、秋田市内の耕作放棄地を活用して、農業体験を通じた食育や収穫の喜びを感じていただく活動を行っている。その農地で収穫した餅米を使った餅つきを企画したところ多くの方に参加いただいた。今日は、つきたての餅を食べながら楽しく交流していただきたい。早く地元に戻ることが出来ることを願っています」と挨拶。引き続き、餅つきが行われ、子供たちは「よいしょ、よいしょ」と声を上げながら、大人と一緒に杵を持ち上げたり、重い杵に顔を赤くしながら懸命に振り下ろしていた。つき上がった餅は、「あんこ」や「きな粉」、「ごま」で味付けして味わった。

イベントは、餅つき大会、試食会に続いて、雪上みかん蒔きなども行われ、福島県郡山市から家族で避難している小学生の兄妹は「杵が重くて、もちがくっつき、つくのが大変だった」、「つきたてのお餅はとてもおいしかった」と笑顔で話していた。



